

大通公園を望む窓辺から

寿命

会長 まつか 松家 はるみち 治道

昨年厚生労働省から発表された日本人の平均寿命は、女性87.74歳、男性が81.64歳と過去最長となりました。私が生まれた1947年のそれは女性53.96歳、男性50.06歳であり、その伸びは女性で34.18歳、男性も31.58歳と、驚くほどのものです。

寿命と言えば、秦の始皇帝（姓は嬴、諱が政）は、幼少期から命を脅かされ、生涯で少なくとも4度の暗殺を企図されたためか、神仙思想に染まり、方士徐福の上奏（騙り？）に乗せられ、東方にある三神山に不老不死の薬を探すよう命じたとされます。なおその徐福は、結局は渉らずに海へ逃亡を図り、一説には日本の熊野にたどり着いたとされており。その熊野は「生まれ変わり」の霊場として古くから信仰されていますが、徐福の願いは叶ったのでしょうか。

また寿命はロウソクの火に擬えられることも多く、日本昔話では、仲のよい双子のおい（弟）がやい（兄）の、倒れた寿命のロウソクを立て直して元気になる「寿命のロウソク」が知られています。また中国でも諸葛孔明が、その最期の地となった五丈原に於いて、ロウソクに延命の祈禱をするものの、報告に来た部下がそれを倒してしまい自らの天命を知るシーンが印象的です。

さらには、古典落語にも初代三遊亭圓朝がグリム童話から翻案したという、「死神」があります。これは死神の教えを悪用して儲けた医師の男が、最後にはその報いとして自分の消えかけたロウソクを見る話です。

さて現代科学でもこのロウソクに類似した発見があります。細胞核内染色体の先端にあるテロメアが「命のロウソク」にあたるでしょう。細胞が分裂するたびにテロメアは短くなり、その長さが半分ほどになると細胞は分裂することなく死に至るとされ、これは飲酒、喫煙、ストレスなどでも短くなると言います。

このテロメアが限界に達し分裂を停止してしまった細胞、老化細胞が、人体に有害な物質を分泌し慢性炎症を引き起こす結果、様々な加齢性疾患を引き起こす原因となるそうですが、この老化細胞を選択的に除去すれば加齢性疾患の予防、改善に寄与できると考えられています。

かくしてますます寿命は延びていく可能性が高くなっていくようで、もちろんそれは長いに越したことはありません。が！要はどのように生きてきたかが大事だとも思います。反省反省。

私の故郷さっぽろ

理事 こん 今 まさと 真人

四季につつまれ息づいている街「さっぽろ」、文化と芸術の街「さっぽろ」、この素晴らしい街「さっぽろ」に私たちが待ちに待った最も躍動的な季節を迎えます。今年は私の故郷「さっぽろ」をゆっくりと散策し、東京以北随一の歓楽街のススキノなどで、新鮮な魚介類や札幌ラーメンなどを食べ歩き、楽しみたいと思う日々を送っています。

この2年間、コロナ禍で行動が制限されている中、あらためて私の故郷を思い浮かべると、都心のオアシスとしての大通公園、札幌市のシンボルであるライラックにちなんだ、「さっぽろライラックまつり」、初夏の幕開けである、「YOSAKOIソーラン祭り」、夏本番の「さっぽろ夏まつり」、紅葉の豊平峡、そして、年末には幻想的でファンタジーの世界を創りあげているホワイトイルミネーション、年明けからの雪と氷の祭典「さっぽろ雪まつり」が華々しく幕を開き、雪と氷の美しさを奏で、この素晴らしい「さっぽろ」を楽しみたいという気持ちがより一層強くなっています。

また、文化と芸術の街「さっぽろ」は、札幌の南に位置する札幌芸術の森、そして、ススキノ歓楽街から歩いて10分位の中島公園内にあるコンサートホール「Kitara」、世界に誇る音響設備を整えたホールでは、国内外のアーティストによるコンサートが催されています。特に、PMFは日本で最大級のクラシック音楽の祭典となり、夏の札幌を代表する一大イベントのひとつで、世界一流の音楽家たちによる多彩なプログラムが連日繰り広げられ、国内外から多くの音楽ファンが訪れています。

私の故郷、「さっぽろ」に、今年はずいぶん皆さまに訪れていただき、楽しめることを心から願っています。

皆さまも、それぞれ美しい故郷をお持ちのことと思います。この北海道を心ゆくまで楽しめる時が来るまで力を合わせて頑張りましょう。

